

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

納税の本当の義務

喜多方市立第三中学校

3年 齋藤 響子

2011年3月11日、午後2時46分。東日本大震災発生。この地震により、東北地方の太平洋側が津波により、一瞬で姿を変えた。そして、たくさんの尊い命が失われたのである。

私は、東日本大震災を小学校3年生で体験した。私が住んでいる地域は内陸にあるため大きな被害はなかった。しかし、震災直後のテレビは全て、震災のことばかり。情報機関もろくに機能しないことに、小学校3年生だった私は、子供ながらにこの重大さを感じた。そんな中、福島第一原発事故発生。多くの人が避難をよぎなくされた。私の小学校にも女の子が1人、転校してきた。テレビでは除染作業や仮設住宅の建設など、様々なことが報道された。その時、私は「除染作業をするのにも仮設住宅を建てるにもお金がかかる。そのお金は、だれが払っているのかな。」と疑問に思った。

そして今回、「税の作文」を書くのにあたり、復興特別所得税があることを学んだ。東日本大震災という世界の歴史に刻む大地震が起きた今、その復興のためにこのような税が新たにたてられていたなんて初めて知った。東日本大震災で直接的な被害に遭わなかった人でも間接的に、復興の手助けをする、この税があったからこそ、日本が一体となれたのではないだろうか。税金として集められたお金は、復興のために様々な場所で使われた。現在もお、自分の家に帰ることができない人や、もう自分の家に帰ることを諦めている人などがたくさんいる。そんな方々のためにも、たくさんの支援をこれからも続けていくことが大切だと思う。

私は、「なんで税金なんかあるのかなあ」とよく思う。一番身近なものでは消費税がある

が、この消費税も、必ずだれかの何かの役に立っていると考えれば、税金を払うことに対し、少し誇りを持てるようになると思う。自分たちが何気なく生活しているこの地域にも税金によりつくられたもの、守られているものが数多く存在する。今、私の生活は安心して安全に過ごせる環境が整っているといえるだろうか。私は今のこの環境はとても素晴らしいものだといえると思う。しかし、物は劣化していく。この環境を未来につなげるためには、税に対する正しい知識を身に付け、全国民が正確に納税する義務が必要だと私は考える。

この素晴らしい環境でさえ、今もなお、整備がされている。日本がより住みやすい国になるよう税への関心を高め、子孫につなぐ、それこそが納税することの私たちの本当に義務であると考えている。